

## 正八角形を基調にした小物入れの試作

中神照太・中村睦男

### 1. はじめに

今日、花瓶や小筐等で、正多角形の木製品は特に珍しい存在ではない。しかし、実用に供されているのは、正方形や正六角形の製品が大半であるように思われる。

ここでは、正八角形の小物入れを試作し、製作上の問題点や試作品の外観・印象等を検討した。

### 2. 材料および仕様

#### 1) 材料

今回の試作では、特に樹種等を限定しなかった。主にスギ、ヒノキ、ケヤキ材を用いたが、これは単に材料調達が容易であったことによる。材料には、研究用の試片を作製する際の端材や、強度試験後の破壊試験片の健全部位等を用いた。

#### 2) 寸法

##### 7. 筆立ての部材

側板； 厚さ 6mm、長辺 30mm（短辺 25mm）、高さ 40 ~ 100mm（20mm毎に変える）

底板； 厚さ 5mm、1辺 27mmの正八角形

##### 1. ごみ箱の部材

側板； 厚さ 10mm、長辺 100mm（短辺 90mm）、高さ 350mm

底板； 厚さ 10mm、1辺 95mmの正八角形

蓋； 底板に同じ、中央部に1辺35mmの正八角形の穴

#### 3) 組立および仕上げ

市販の木工用ボンド（エマルジョン型の酢酸ビニル樹脂接着剤）を接着面に塗布した。輪ゴムで固定し、室温で硬化させた。仕上げはワックスの塗布とした。

### 3. 外観など

今回試作したものの中から代表的なものを選び、その外観を写真1から写真4にまとめて示す。以下に、今回の試作での留意点・印象等を略記する。

まず、概観として、

一見して、四角形や六角形の製品に比べて角がなく、どちらかといえば丸い感じすら受ける。

ごみ箱のように室内に置いた場合、部屋のコーナー位置での収まりがよい。整理・片付けの際にも場所の無駄が少ないことにもなる。

加工技術的には、斜めの面の角度（22.5度）の決定が難しい。この角度が正確でないときれいな仕上がりが望めない。ただし、スギ材のように軟らかい材は接着時の圧縮で多少修正できる。もし、大量に製造する場合は、正確な傾斜角と幅決めのできる支持器具を製作し、使用すると良い。

製品の大きさと板の厚さには特に注意を要する。

次いで、試作品を各論的に見ると、

#### ①蓋がない（基本的な）ものの場合

試作品（筆立てを例示）の基本的な部材構成を、写真1に示す。この部材に、接着剤（木工用）と輪ゴム（固定用具）を加えると、小学校低学年程度の工作用に、「筆立てキット」としても利用できるであろう。

写真2には、その応用として、高さの異なる筆立てを4種類組合わせた例を示す。組合せ方はこの他にもいろいろ考えられる。筆記具は種々の大きさ・形状のものがあるので、このような組合せたものが実用的とか思われる。

この基本セットは部材の大きさを微妙に変化させることで、箸立てや爪楊枝入れ等、いろいろな食卓用品にも応用できる。

外観の印象や使用感は樹種により多少異なり、一般に、スギ（針葉樹）よりケヤキ（広葉樹）の方に好感を持つ人が多い。筆立て程度の大きさの場合、単独で使用するときは、重量のある樹種（ケヤキ等）の方が安定性が良い。組合せて使用の場合は、軽い樹種の方が良いであろう。

#### ②簡易な蓋があるものの場合

簡易な蓋のある例として、ごみ箱を写真3に示す。

この場合、側板の上端内側の溝に落とし込む方式の蓋をすることになる。

加工技術的には、蓋なしの場合と殆ど変わらない。今回は、蓋のごみ投入穴は外見的なバランスから相似形の八角形としたが、丸穴の方が細工しやすいかもしれない。

ごみ箱などの場合、使用上水濡れや汚れの恐れが大きいため、その防止対策として、内側に濃色の防水性塗料を塗布すると良いであろう。

#### ③蓋付きの場合

蓋付きの試作品の例を写真4に示す。

外見的には、かなり高級感な仕上がり状況・印象を与える。

身と蓋の合わせにかなりの加工精度を要することと、このような形状のものは用途が限られ、今回のような端材等の利用には馴染みにくいこと等から、ここでの端材利用という目的には、多少合わないように思われる。

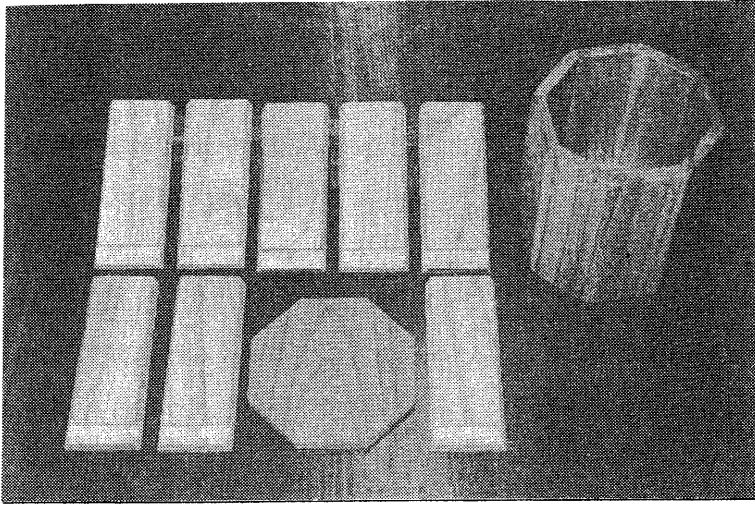


写真1 筆立てキット

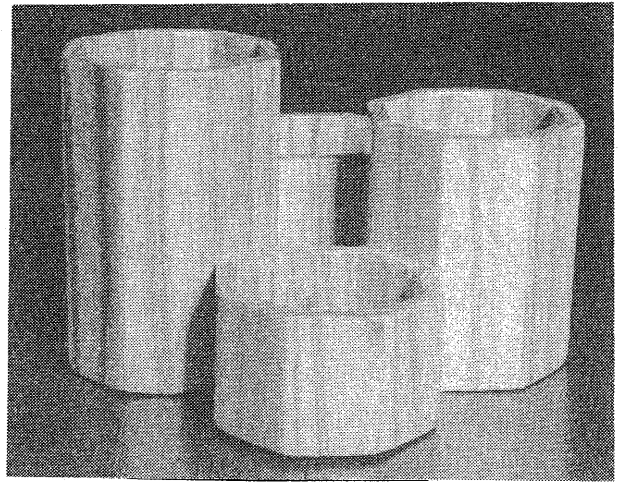


写真2 組合せ式筆立て

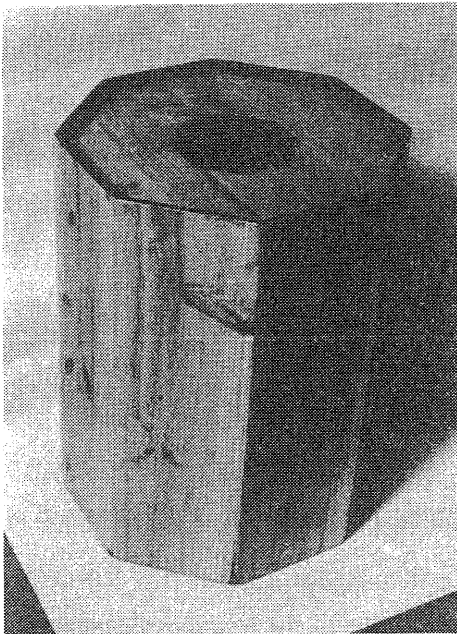


写真3 ごみ箱

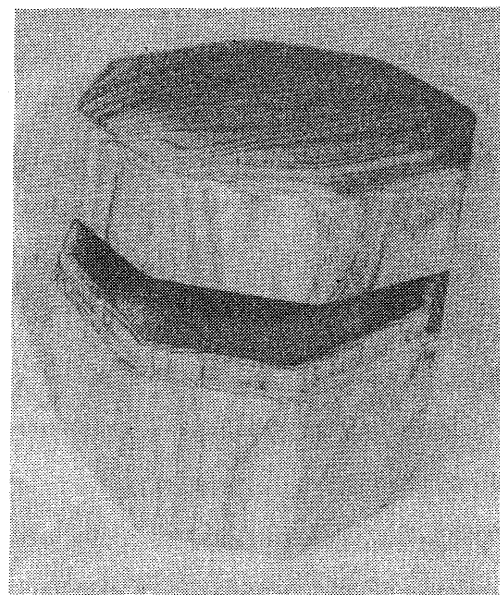


写真4 蓋付き小物入れ